

火災原因のトップはたき火の不始末

日光市消防統計

昭和五十三年中の消防統計がこのほどまとまりました。

それによりますと、火災発生件数は十四件で、前年より三件増え

ています。その内訳は、建物七件、林野四件、車両二件、その他一件

です。火災による焼失面積は、約三十七坪で、損害額は約二千五百七十三万三千円でした。

救急車の活動

昭和五十三年中の救急車出動件数は四百五十四件で、前年より三十三件減っています。これを原因

岸野収入役が退任

日光市収入役岸野節男氏(59)は、一身上の都合により、二月七日付で収入役を退任されました。

岸野氏は、昭和二十四年、日光町土木課に勤務以来、一貫して市の建設部門を担当され、昭和四十一年には、建設課長となり、一時期は、都市計画課長も兼務されました。

四十九年十月には、収入役に就任され、今回の退任まで、三十年の永きにわたり、日光市のためにつくされました。

火災の原因は、①たき火四件 ②たばこ二件 ③交通事故二件 ④不明二件 ⑤放火の疑い、子供の火遊び、ガス器具の不始末、電気の安全器故障などが一件づつとなっています。

火災は、アツという間に私たちの生活の場を焼きつくし、最悪の場合には、尊い命まで奪ってしまっています。さて、その火災が不幸に



昭和五十三年中の救急車出動件数は四百五十四件で、前年より三十三件減っています。これを原因別で見ると、一番多いのが急病人で百九十八件、二番目が交通事故の九十八件、次いで一般負傷八十九件となっています。

搬送人員は、四百二十六人でした。そのうち市内の方は百九十人で、残る五五・四%にあたる二百三十六人が市外居住者です。このことは、観光地日光の特色を表しています。

を祈願してから、五〇坪ほど先の右側にある「手掛石」を小さく割って持ち帰り、神棚にあげて、毎日祈願すると、字が上達するという信仰が、明治のころまで盛んであったという。

「手掛石」は、参道右側にある高さ三坪ほどのこけむした巨岩で、簡単に割れるような石ではない。近年史跡探勝路と名づけて、説明板を立てたところ、ここを訪れるだれかが割るらしく、あたりに石の粉が見られるようになった。昔、権現が手を掛けたので、そう呼ぶという手掛石、割らずに手を掛けて祈ってもいいのではなからうか。

新学期をひかえて

運動と学習

バランスのとれた生活を

あいさつ中に、立っていられなくなつて倒れる子供を何人か見かけました。いまの子供たちは、ひとこ



野球評論家

佐々木信也

親として、私がいつも思うのは、子供に対しては、まず何よりも丈夫な体をつくつてやることです。とくに幼児の

うちは、いうまでもないことですが、健康第一に育てなければ……と思います。勉強するにも、体力がないと続きませんからね。理想的には、丈夫な体と豊かな心——バランスのとれた人間に育ってもらいたいというのが、親たるものの共通した願いでしょう。

とはいうものの、実際には、あれもこれもと多くの夢や望みを子供に託しがちです。しかし、それでは子供がかわい

方、子供の体力が以前に比べて伸びていない現在、あえて主張したいですね。丈夫な体と豊かな心のバランス——これは、口でいうほど簡単ではありません。ましてや、口先だけのかけ声だけでは、子供は納得しません。子供の一日の行動スケジュールに即して、運動と学習のバランスのとれた生活プログラムを、子供と一緒に作ってみてください。